

令和4年度

8月の補導活動

佐久市少年センター

1	街頭補導実施回数	16回
2	延べ従事補導委員数	24人
3	相談件数	0件
4	補導した少年数	0人
5	声かけ人数	154人



8月の補導日誌から

8月1日(月)

専門補導委員 記

巡回経路 大型スーパー → 市民交流ひろば → ミレニアムパーク
→ 佐久平駅 → 大型スーパー内ゲームコーナー・フードコート

補導の様子

市民交流ひろばでは、気温は33度を超えているものの、40人以上の親子連れが遊具や水場で楽しそうに遊んでいた。公園の管理人さんに最近の様子をうかがうと、2週間ほど前の夜半過ぎに駐車場でトイレトペーパーが燃やされる事案があったそうだ。警察に来てもらい、処理してもらったようだ。夜間は車が駐車場に入って来られないような措置も施したとのことだった。大型スーパー内ゲームコーナーは、かなり子どもたちや親子連れで賑わっていた。お店の方に話を聞くと、夏休みに入って昼間から大勢訪れるそうだ。特に問題は無いとのことだった。

8月2日(火)

専門補導委員 記

巡回経路 野沢地区内公園(中嶋・原・城山・鍛冶屋・高柳・取出町ふれあい
泉団地等)、大沢グラウンド及び野沢児童館

補導の様子

真夏日が連日続いており、夏休み中の子どもの様子を確認するため、野沢地区内の公園を中心に街頭補導活動を実施した。気温が高かったためか、城山公園を除いて他の公園には人影がなかった。城山公園には男女各6人の小学生が勉強、追いかっこ、自転車乗り等、思い思いに過ごしていた。この中に、芝生上で『側転』をしている女の子がいた。体操選手のようにきれいな『側転』であり、褒めてあげると嬉しそうに再び『側転』を見せてくれた。「他に得意技を持っている人？」と聞くと、「見せてやりなよ。」と促された男児が、はにかみながら自転車にまたがり50mほどの距離をウイリー走行してくれた。明るく元気な子どもたちに接し清々しい気持ちにさせてもらった。

8月4日(木)

専門補導委員 記

巡回経路 佐太夫町公園 → 横町公園 → 平賀新町公園 → 水上公園 → 橋場公園
→ 成田公園 → 中嶋公園 → 城山公園 → 成知公園 → 中込児童館

補導の様子

急に降り出した雨に、持参した助手席の雨具に思わず目をやった。猛暑とコロナ禍の夏休みを子どもたちはどう過ごしているのだろうか。雨模様の天気の影響もあろうが、街頭補導では必ず子どもたちを見かけていた城山公園や成知公園にも子どもの姿を見ることはなかった。大勢の子どもたちでにぎわう遊具も、今日は雨に濡れている。感心したのは、どの公園も夏草がきれいに刈られていたことである。子どもたちの歓声が公園に響く様子を思い浮かべた。中込児童館は、夏休み中も午前8時から午後6時まで開館しており、当日も30名ほどの利用があるとうかがった。近日のコロナ感染拡大に加え、熱中症への対応にも配慮しつつ館を運営することの難しさをひしひしと感じながら、スタッフの皆さんにお礼をいって館を後にした。

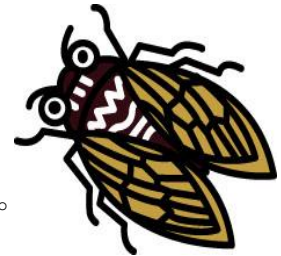
8月8日(月)

専門補導委員 記

巡回経路 野沢中学校 → 野沢体育センター → 大型書籍販売店
→ 城山公園 → 原公園 → 中嶋公園

補導の様子

日が西に傾いたとはいえ、4時を過ぎても外気温は30℃を超えている。東の空には積乱雲が立っている。一雨ほしいところだが、今日も夕立はありそうにない。野沢中学校の校庭に生徒の姿はない。野沢体育センターもひっそりと静まり返っている。大型書籍販売店では文具コーナーで、数名の子どもを見かけた。成人向け雑誌や映像コンテンツ類は販売していないと店員さんからうかがった。城山公園では小学生4人が四阿で涼をとっていた。夏休みの宿題を持参していたが、課題の量が多くて大変だと話してくれた。親子連れで訪れていた小学校2年生の男の子に話を聞くと、捕まえた7匹の蝉を逃がしに来たという。近くで見守る母親の温かい眼差しが印象に残った。原公園に人影はない。中嶋公園には数組の親子連れや中学生が訪れていた。涼しいと思って来てみたという2人の男子中学生は、あまりの暑さに木陰で休んでいた。熱中症に注意するように話して彼らと別れた。



8月10日(水)

専門補導委員 記

巡回経路 下の宮公園 → 橋詰公園 → 稲荷山公園

補導の様子

新型コロナウイルス感染警戒レベルが引き上げられ、補導活動も少年センター専門補導委員のみの活動となっている。次週の活動中止を各地区の補導委員の皆さんに連絡がてら白田地区の街頭補導活動を行った。それにしてもこの連日の猛暑には閉口する。熱中症を避け外出を控えているためか、普段はにぎわう街角に人影はまばらである。子ども達の歓声を期待して訪れた下の宮公園も閑散としていた。橋詰公園にも子どもの姿はない。稲荷山公園では成人男性が一人トレーニングをしていた。そろそろ公園を後にしようとしたとき、展望台から出てくる親子連れを見かけて話をうかがった。東京から岩村田の実家に来ているという両親と小学生の3人連れ家族は、自家用車で信州を訪れ休日を満喫しているが、日中の暑さは東京と変わらないという。活動の帰路、咲き誇る百日紅の並木に目を奪われた。

8月12日(金)

専門補導委員 記

巡回経路 小田井児童館 → 仙祿湖公園 → 曾根公園 → 鼻顔公園

補導の様子

昨日までの猛暑に比べ、今日はずいぶん過ごしやすい。急な雨に備え、こうもり傘を用意して補導活動に出かけた。小田井児童館では、当日9人の利用があるという。新型コロナウイルス感染拡大を受け、夏休み中は保護者が検温結果、迎えの時間を所定の用紙に記入するように配慮していた。「子ども達が密になってしまうことは避けられないが、換気や消毒など可能な限り対策を講じている」と職員の女性が話してくれた。仙祿湖公園、曾根公園に人影はなかった。鼻顔公園には2組の親子連れが遊具で遊んでいた。フリスビーで遊ぶ若者の姿も見られた。公園を後にしようとしたとき、犬と散歩している年配の男性に声をかけられた。マレットゴルフ愛好会の会長さんで、この公園の草刈りやマレットゴルフコースの整備など、日常的に活動を行っているという。10分ほど活動についてお話をうかがったが、大変ご苦労されていることを知り、頭が下がる思いだった。厚くお礼を申し上げ、会長さんと別れた。

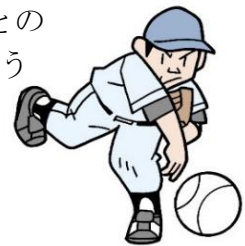
8月16日(火)

専門補導委員 記

巡回経路 ひよこ公園 → 下平尾区公園 → 平尾山公園 → 新子田八幡神社
→ 大型スーパー → 佐久市市営球場 → 鼻顔公園 → 若宮公園

補導の様子

平尾山公園は、観光客がカメラのシャッターを押したり景色を眺めたりし、穏やかな時が流れていた。大型スーパーのフードコートでは、男子高校生3名が勉強中。佐久市営球場に野球のユニフォームを着た数名の子どもが自転車でやって来た。声かけすると元気のよいあいさつが返ってきた。市内のシニアリーグに所属している中学生とのこと。熱戦が行われている甲子園大会について「チームの先輩が出場しホームランを打ちました」と自分のことのように笑顔で話してくれた。「先輩のように甲子園に出られるように頑張るね」と励ますと、全員が声を合わせ大きな声で「はい」。子どもたちとのわずかなふれあいだったが、とてもさわやかな気持ちになった。頑張れ！未来の甲子園球児！



8月18日(木)

専門補導委員 記

巡回経路 田口児童館前 → 五稜郭公園 → 青沼児童館前 → 大宮諏訪神社
→ 臼田駅 → 下越公園 → 平賀新町公園

補導の様子

感染症拡大防止に配慮し、児童館への立ち寄りや遠慮し、外周から子どもたちの様子をうかがった。田口児童館の駐車場は児童を迎えに来たと思われる車両で満車状態であった。大勢の児童が児童館を利用しているものと思われた。青沼児童館の駐車場は、1台の車両が止まっていただけであった。五稜郭公園には、未就学と思われる子どもと母親の親子が水辺で遊んでいたが、他に利用者はいなかった。大宮諏訪神社・臼田駅・下越公園・平賀新町公園には、誰もおらず閑散としていた。今日から2学期が始まった小学校もあるようだが、多くの小・中学校は明日以降のようで、夏休みの宿題に取り組んでいるのか子ども姿が見えない夕方であった。

8月19日(金)

専門補導委員 記

巡回経路 久保田公園 → 仙祿湖公園 → ねむのき公園 → 市民交流ひろば
→ プレイサークル

補導の様子

猛暑の盆が明け、秋の気配を感じる。給油に立ち寄ったガソリンスタンドの店員さんは、「今日は秋の空気ですね」と話してくれた。市内では、何校かの小中学校で2学期が始まっている。下校する子どもの姿も見られるようになった。久保田公園に人影はなかったが、仙祿湖公園には親子連れや中学生の姿が見られた。3人の女子中学生に話しかけると、以前に別の公園でも話しかけられたことを覚えていてくれて、明るく対応してくれた。今日は始業式で久しぶりに会った友達同士この公園を訪れたという。ねむのき公園には親子連れが3組、虫採りをしていた。近くの歩道にも、補虫網を持った子ども達を見かけた。市民交流ひろばでは、噴水の周りで遊ぶ小さな子ども達の歓声が響いていた。プレイサークルでは8名ほどの中学生が、バスケットボールを楽しんでいた。夏休みが終わり、街角の風景も以前の日常の姿にもどってきたと感じた。

8月22日(月)

専門補導委員 記

巡回経路 大型ゲームセンター → パチンコ・スロット店 → ネットカフェ
→ 曾根公園 → 近津南公園 → 若宮公園

補導の様子

一陣の風に秋を詠んだ古人(藤原敏行; 秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる)のように、秋の空気を感じるようになった。街頭補導でも、暑さはさほど気にならなくなった。大型ゲームセンターの客は、若者が中心だが、親子連れや年配の姿も見られる。「夏休み中は家族連れの客が目立ったが、特に問題はなかった」と店員さんが話してくれた。パチンコ・スロット店、ネットカフェでも、夏休み中や近日のようすをうかがったが、青少年に関わる問題は見られないとのことであった。曾根公園に人影はなかった。近津南公園では4人の小学生が遊具で遊んでいた。若宮公園には、大勢の子ども達の姿が見られた。母親に見守られながら走り回る幼い子どもや、7人程のグループで遊ぶ小学生など、どの子の表情も笑顔に包まれていた。

8月23日(火)

専門補導委員 記

巡回経路 佐久良公園 → 望月宿公園 → 若駒児童公園 → 布施温泉公園

補導の様子

佐久良公園には、未就学児童を連れた2組の親子が芝生の上で遊んでいた。望月宿公園は、利用者がいなかった。若駒児童公園には、小学校低学年の女子児童1名がいた。声かけすると小学校3年生とのこと。友達と一緒に遊ぶ約束をしており、友達が来るのを待っているとのことだった。布施温泉公園には、母娘の親子が遊具で遊んでいた。温泉に入る前に遊んでいるとのことであった。様々な制約が求められるコロナ禍ではあるが、感染防止に配慮しながら広い公園で触れ合う親子に出会い、新型コロナウイルス感染症が一日でも早く収束し、コロナ禍以前に戻って欲しいと願った。



8月24日(水)

専門補導委員 記

巡回経路 佐太夫町公園 → 横町公園 → 水上公園 → 平賀新町公園
→ 橋場公園 → 成田公園 → 成知公園

補導の様子

照りつける日差しは夏の名残をとどめている。中込地区の7つの公園を巡回しながら、新学期の子ども達のようにすを見回った。佐太夫町公園、横町公園、水上公園に人影はなかったが、夏草が刈られ、よく整備されていた。平賀新町公園では、2人の小学生が帰宅途中に立ち寄っていた。「家はすぐそこだが、暑くて疲れたので、ここで水を飲んで休んでいる」という。1年生だという彼らは、「あと2回学校へ行くとまた休みだよ」とけなげに話してくれた。橋場公園ではひ孫2人を連れのお年寄りとお話させていただいた。「ひ孫を連れて、毎日のようにこの公園を訪れているが、昔はここで地区の運動会をやった」と感慨深げに話してくれた。成田公園を後にして、成知公園に寄ると、ここには多くの子どもの姿が見られた。2人の中学生は、「新学期の学校は楽しい」と話してくれた。自転車に乗ったり、虫取りをしたり、思い思いに夏の終わりの一日を楽しんでいた。



8月26日(金)

学校訪問(佐久長聖中学校)

専門補導委員 記

概要

教頭先生から佐久長聖中学校の生徒の概要などについて丁寧に説明していただきました。「生徒数は、3年生96名、2年生129名、1年生100名。寮生活でホームシックになる寮生もいる。寮生は金・土・日のいずれかに帰宅する。月曜の朝に自宅から登校する生徒もいる。クラブ活動では、軟式野球部は惜しくも全国大会に出場を逸したが、女子柔道部は全国制覇、剣道男子も活躍している。岩村田商店街での職場体験を計画し、地域との連携を図ることを大切にしている。修学旅行は、カナダで語学研修を実施するが、円安等により予算の高騰に苦慮している」等のお話をいただきました。今後は、基礎基本をしっかり身に付けた生徒を中・高の6年間で育てて行きたいとおっしゃっていました。

8月29日(月)

専門補導委員 記

巡回経路 市民交流ひろば → プレイサークル → ミレニアムパーク
→ 佐久平駅 → 大型スーパー

補導の様子

日中の暑さはまだしのぎかねるが、4時を過ぎる頃には涼風がたちはじめた。市民交流ひろばでは、散水の水しぶきに芝生が青々と輝いて見える。多くの親子連れが訪れ、子ども達の歓声が響いていた。管理人さんは、「10時以降駐車場を完全閉鎖していて、このところ事件や事故は一切ない」と話してくれた。プレイサークルのバスケットコートには、4人の高校生が訪れていた。コートやバックボードの使い方について注意を促すと、素直に対応してくれた。ミレニアムパークに人影はなかった。佐久平駅小海線乗り場には、数名の乗客が列車の到着を待っていた。大型スーパーのゲームコーナーでも人影はまばらであった。店員さんに最近のようすをうかがうと、「特に問題はなく、夏休み明けからお客さんは減少している」とのことだった。店の入り口には、16歳未満の入店についてわかりやすい掲示がなされていた。

8月30日(火)

専門補導委員 記

巡回経路 舟久保団地公園 → 塩名田神社 → 十二川原公園 → 庄ノ上公園
→ 下原区内こどもひろば → 八幡神社 → こまよせ児童公園

補導の様子

舟久保団地内の公園・塩名田神社・十二川原公園・庄ノ上公園・下原区内のこどもひろば・こまよせ児童公園(工事中)には誰もいなかった。八幡神社東側の遊具が設置されている公園を訪問したが誰もいなかった。一旦その場を離れ、神社境内に行った時、先ほど訪問した神社東側の公園の方から楽しそうな歓声が聞こえてきた。行ってみると、男子1名・女子5名の児童が回転ジャングルジムに乗って遊んでいた。児童は初対面で見ず知らずの私に「こんにちは」と元気よく明るい声であいさつしてくれた。地元の小学校に通う6年生で、帰宅後、公園に集まり遊んでいるとのこと。屈託なく明るく元気に遊ぶ児童に接し、このまま成長してほしいと思った。間もなく午後5時になるので「早めに帰ろうね」と促すと素直に「はい」と再び明るく元気な返事が返ってきた。

＜8月の補導を終わって。 専門補導委員＞

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっており、県独自の医療アラートが「医療非常事態宣言」、また佐久圏域は「感染警戒レベルが6」という深刻な事態になっています。当面、感染防止ため街頭補導や学校訪問などの活動は専門補導委員だけで実施し、地域選出の補導委員の皆さまの活動は中止しております。**9月は街頭補導活動のほかに学校訪問が5回**予定されております。また**10月は学校選出の補導委員やPTAの皆さんとの合同街頭補導活動**が予定されております。今後の感染状況により、**中止となる際は連絡させていただきます**。よろしく願いいたします。

第104回全国高等学校野球選手権大会は宮城県代表の仙台育英高校が優勝しました。東北勢としては春夏通じて初めての優勝で、深紅の優勝旗が白河の関を越え大きな話題となりました。長野県では、春の北信越大会東信予選会初戦で敗退した佐久長聖高校が、猛練習を重ね4年ぶり9回目の出場を果たしました。また、山形県代表の高校には佐久市内の中学校を卒業した佐久市出身の2名の選手が出場していました。選手権大会で優勝した仙台育英高校の監督がインタビューで「おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて…僕たち大人が過ごした高校生活と違う青春…『だめだ だめだ』と言われ、活動してもストップがかかって、でも諦めないでやってくれた…たまたま僕たちのチームがここに立った(優勝)ということ。ぜひ全国の高校生に拍手してもらいたいと思います」と答えていました。また、主将は「いろいろな人に支えてもらってここまで来たけれど、毎日支えてくれた両親に感謝したいです」とはきはきと答えていました。今大会には全国から3,603校が参加し、頂点に立ったのは1校だけですが、他の3,602校全ての学校は1敗しただけです。浅間山・蓼科山・荒船山等の山岳に囲まれ、千曲川が流れる佐久平で生まれ、多くの汗を流し練習に打ち込んできた球児をはじめ、コロナ禍で今まで当たり前できていたことができなくなる生活を送ってきたすべての子どもたちに拍手を送りたいと思いました。高校野球を見ながら『地域の宝である子どもたちがすくすくと育ち、夢の実現に向かって真っすぐに成長してほしい』と願い、その一助になればと思うこの夏でした。

